

# 重要文化財

たじはやひめじんじゃほんでん

# 多治速比売神社本殿

ひわだぶき

## 檜皮葺屋根修理現場公開



室町時代（天文 10 年 / 1541）に建築された本殿で  
檜皮葺の美しい屋根と彩色や彫刻に特徴のある建物

H14 (2002). 2. 9

堺市教育委員会

# いろいろなかたちの檜皮

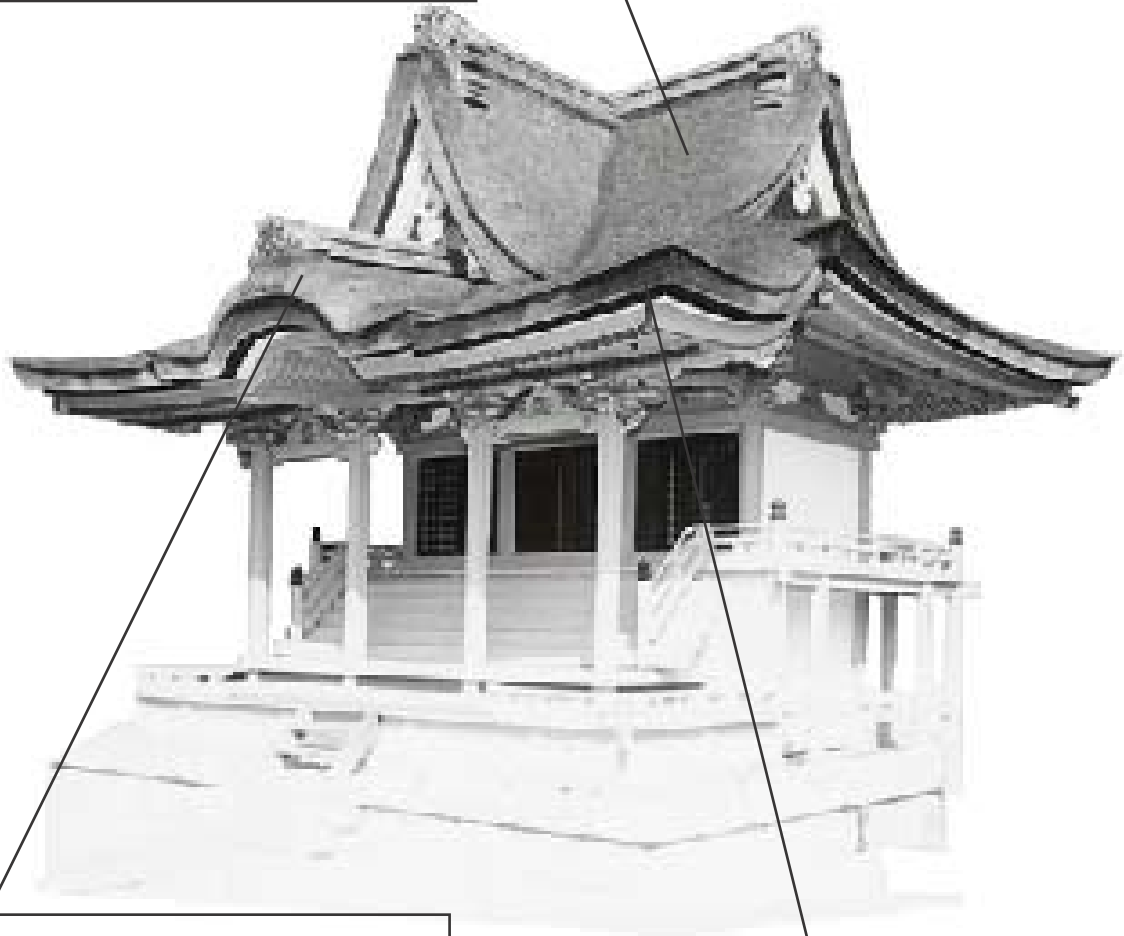
## ひらかわ 平皮

平地の部分を葺く檜皮。長さ2尺5寸の台形状のもので葺き上げます。「長皮」ともいいます。

尻幅3寸5分 (10.5cm) 口幅5寸 (15cm)  
長さ2尺5寸 (75cm)

## 指定データ

多治速比売神社本殿  
桁行3間 梁間1間 一重 入母屋造  
正面千鳥破風付  
向拝3間 軒唐破風付 檜皮葺  
附 棟札1枚  
昭和24年2月18日 重要文化財指定



## どうぐがわ 道具皮

箕甲や隅など屋根の特定の部分に使う檜皮の総称です。役物とも呼ばれます。檜皮を現場でそれぞれに加工しながら葺きます。

## のきづけ 軒付

軒まわりの厚みのまま屋根全体が覆われているのではなく、軒先だけ造形美のため、意匠的に厚く積み上げています。

# いろいろな屋根葺材料

屋根はいろいろな材料によって葺かれていますが、檜皮葺以外の代表的なものを取り上げてみました。



国宝 桜井神社拝殿

かわら  
瓦

現代で最も一般的な屋根葺材。寺社建築では平瓦ひらがわらと丸瓦まるがわらを交互に葺く本瓦葺が多い。



重要文化財 高林家住宅

かや  
茅

民家等に多く用いられた屋根葺材料。茅の茎くきを束ねて葺き上げる。

# いろいろな檜皮葺の道具



## 木ベラ

長さは40～50cm。カナメモチの木を削ったもの。このヘラを檜の表皮と甘肌あまはだ（形成層けいせいそう）の間に入れて、木肌を傷めないようにして立ち木のまま剥ぎ取ります。檜の皮をむく職人のことを「原皮師もとかわし」といいます。



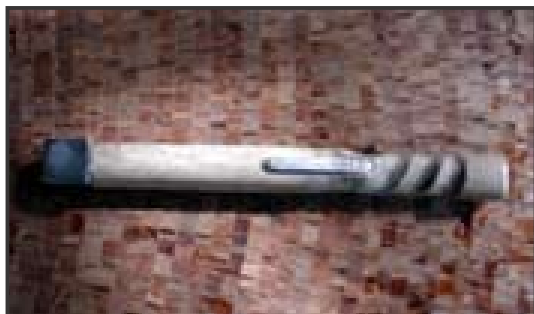
## ひわだぼうちょう 檜皮包丁

厚みや長さを揃える刃物です。この包丁を使い、洗う、剥ぐ、切る、綴るつづ、裁つた、と檜皮のこしらえの全ての工程をこなします。



## たけくぎ 竹釘

竹を原料として釘状に加工します。長さ3.6cm、径3mm程度に裁断した後、天日乾燥てんびをさせ、焙煎ばいせんします。



## やねかなづち 屋根金槌

葺師は竹釘を口の中に含んで、舌先で1本ずつ選りだし、屋根金槌で檜皮を留めていきます。